

本教材パッケージの授業映像

動画で撮って活用する ～その分類とポイント～

○動画の活用場面

一般的に、児童・生徒が動画を撮影し、活用する場面は、次の4つに分類されます。

①紹介する

撮影した対象（もの、人、コト）について、紹介するシーンで活用します。

②説明する

理科の実験や意見を主張する際など、証拠として提示する場面で活用します。

③創造する

ものづくりや図工・美術の作品づくりなど、映像による表現として活用します。

④確認する

英語の会話場面や体育の実技など、確認するシーンで活用します。

この中で、①②③は、他者へ行う行為です。それに対して、④はむしろ、自分に向けて行います。このような違いはありますが、この4つの分類を意識しながら、それぞれの活用の質を上げていきたいものです。

Clipsを活用した実践事例動画の解説

【小学校の事例】 宮津先生の実践

・小学校5年生「複雑な図形の面積を求めよう」は、グループで考えた面積の求め方を「②説明する」の事例です。みんなでアイデアを出し合って、Clipsのビデオを作成を通して、より深く面積の解き方を理解できます。

【小学校の事例】 西尾先生の実践

・「1年生とのビデオ交流プロジェクト」は、1年生に安全に楽しく学校を過ごしてもらえるように作成する「①紹介する」の事例です。

【小学校の事例】 福田先生の実践

・小学3,4年総合：金沢での合宿が困難になったチームの選手を応援する映像を作る「①紹介する」の事例です。

【小学校の事例】 石井先生の実践

・小学6年総合：コロナ禍でも、様々な思い出を最高の形で残そうという取り組みを伝える映像を作る「①紹介する」の事例です。

【小学校の事例】 山本先生の実践

・小学4年理科：骨や筋肉のつくりとはたらきについて学習した後、人体のすごさを伝えるビデオを作る「②説明する」の事例です。

【小学校の事例】 山中先生の実践

・小学5年国語：ICTリテラシースキルアップ単元と関連化させ、国語科における委員会を紹介するムービーをつくる「①紹介する」の事例です。

【小学校の事例】 山中先生の実践

・小学6年総合：6年間のたくさんの思い出のつまった「記憶」を、「記録」として残す「①紹介する」の事例です。

【中学校の事例】 反田先生の実践

・「英語で3ヒントクイズのムービー制作」は、相手に伝わる英語表現を工夫し、正確な発音を意識してクイズを作成する「①紹介する」の事例です。Clipsのライブタイトル機能を使うことで、発音のチェックと確認ができます。

○留意点

では、撮って活用する上で、どのような留意点があるでしょうか。ここでは3点あげたいと思います。

ア) 目的意識を明確にしよう

なぜ一人ひとりの子どもたちが撮影するのでしょうか。それをどこで何のために使うと想定しているのでしょうか。ここが明確にならないと、漫然と実験の様子や体育の演技の様子を撮ることになりかねず、それはあとで活用できませんし、教師が子どもに適切な助言を行うことはできません。端末があり、撮れば良い、というわけではないのです。

イ. 相手意識を明確にしよう

特に、①や②の場合は、誰に紹介するのか、誰に説明するのかによって、その撮り方や編集の仕方も違って来ます。幼稚園児であれば、ゆっくりと話、難しい言葉を使わないなどの工夫も必要になってきます。また、見た人が大きさがわかるように撮るなど、アップとルーズの検討なども、話し合わせたいですね。

ウ) ツールの選択を意識しよう

「紹介する」「説明する」「説明する」「確認する」すべてに言えることですが、本当に映像にすることが良いのか、他の方法はないのか、子ども自身が比較検討をする場もあると良いと思います。子ども自ら最適な方法で目的を達成することが最終的なゴールだと私は思います。そのために、ツールの選択を意識させましょう。